

[047]中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2202964>

出版情報：中国文学論集. 47, 2018-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

彙報

○講義題目

平成三十年度前期（春学期・夏学期）

基幹教育科目

文系ディシプリン科目（文学・言語学入門） 静 永 教授

文学部

講義 長恨歌・長恨歌伝講読

静 永 教授

講義 中国白話文学研究

井 口 講師

演習 唐詩殘篇訳注

静 永 教授

演習 中国白話小説講読

井 口 講師

演習 中国語文法研究（言語文化研究院）

西 山 教授

演習 古典文学作品研読

林 教 師

演習 中国文学研究法

林教師・井口講師・静永教授

中国語（中級）Ⅲ・中国語初歩Ⅰ

（佐賀大学）中尾友香梨准教授

中国語会話Ⅰ・中国語作文Ⅰ

林 教 師

人文科学府

*印は他講座教員との共同オムニバス授業

現代文化論C

井口講師・静永教授*

演習 文選の研究

静 永 教授

演習 明代文学研究法

井 口 講師

演習・博士演習 中国文学研究法

林教師・井口講師・静永教授

論文指導 中国語学中国文学の諸問題 井 口 講師

論文指導 中国語学中国文学の諸問題 静 永 教授

オーブンキャンパス模擬講義 井 口 講師

平成三十年度後期（秋学期・冬学期）

文学部共通科目

人文学基礎Ⅱ 中国の伝統文学と大衆文学について

*印は他講座教員との共同オムニバス授業
井口講師・静永教授*

文学部

講義 中国白話文学研究

井 口 講師

演習 唐詩殘篇訳注

静 永 教授

演習 中国白話小説講読

井 口 講師

演習 古典文学作品研読

林 教 師

演習 中国文学研究法

林教師・井口講師・静永教授

中国語（中級）Ⅳ・中国語初歩Ⅱ

（佐賀大学）中尾友香梨准教授

中国語会話Ⅱ・中国語作文Ⅱ

林 教 師

集中講義 中国演劇史の研究

（京都府立大学）小松 謙 教授

人文科学府

演習 文選の研究

静 永 教授

演習 明代文学研究法

井 口 講師

演習・博士演習 中国文学研究法

林教師・井口講師・静永教授

論文指導 中国語学中国文学の諸問題 井口講師

論文指導 中国語学中国文学の諸問題 静永教授

○学位論文

(二〇一八年三月学位取得)

夏目漱石の漢詩における風景描写〔学士〕白本 茜

市河寛斎と中国唐宋の詩〔学士〕岸本 美幸

「林家舗子」の世界…小説から映画へ

〔学士〕木原 規衣

唐代の女流詩人魚玄機の人物像〔学士〕澤田 優子

郁達夫と精神分析論〔学士〕渡邊 広子

李白の文学とその政治思想〔修士〕孫 亜秋

(二〇一八年九月学位取得)

黄庭堅詩歌言語研究〔博士〕蒙 頭 鵬

○中国文藝座談会

第二九七回(二〇一八年一月二十七日)於文学部四階会議室

司馬相如「大人賦」について 木村 淳美

「目連変文」の文体研究 下川 純奈

『水滸伝』の人物像研究 鶴田 茜

白蛇伝物語の諸相 諏訪田 実紀

程小青とコナン・ドイル

—シャーロック・ホームズ翻訳研究 木佐木 映見

日本内閣文庫所蔵の『極玄集』について 汪 涵

第二九八回(二〇一八年三月三日) 於文学部四階会議室

武定侯郭勛と通俗白話歴史小説 井口 千雪

黄庭堅と蘇軾「和陶詩」 原田 愛

「長恨歌」と中唐の「尤物」論 竹村 則行

第二九九回(二〇一八年四月二十八日)

白居易の描いた悲劇の王妃たち 於教育学部一階会議室

日本白居易研究における「四傑」—平岡武夫・花房英樹・ 干 佳林

太田次男・岡村繁— 李 宝霖

周作人の「草木虫魚」シリーズ(前篇)—鳥獣虫魚小品— 呉 紅華

『西廂記』評点本について 黄 冬柏

第三〇〇回(二〇一八年七月十四日)於文学部四階会議室

『李嶠百詠』と初唐における詠物詩の変革 胡 凌燕

荻生徂徠における王世貞の文学思想の受容 薛 欣欣

『四庫全書総目』の殿本と浙本の比較

—「史部」を中心として 楊 柳

死と向き合う陸機—「歎逝賦」と「挽歌詩」を中心として

王 昊聰

三百回を通過した中国文藝座談会 竹村 則行

第三〇一回(二〇一八年十一月十七日)

於伊都イースト一号館 六階中国文学研究室

馮夢龍の笑話集編纂について 山口綾子

西晋における「雷電」と陸機 王昊聰

妻を暗示する唐詩について 静永健

〇九州大学伊都キャンパス完成記念人文科学研究院国際シ

ンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学的変容」

セクシオンII「移ろえど変わらぬ和漢古典の魅力(変又

不変的和漢古典文学之魅力)」(国文研究室との共同開催)

(二〇一八年九月二十一日於伊都C P・ゲストハウス)

基調講演:『聯珠詩格』と江戸漢詩の大衆化

(成蹊大学名誉教授・学士院会員) 揖斐高

論建安文学批評的発生

(北京大学教授・中国文選学会会長) 傅剛

唐代「格」「律」「体」及相關詩学概念考釈

(北京大学教授・中国唐代学会理事) 杜曉勤

日中で異なる「長恨歌」の本文 静永健

空海の漢詩文を通じて平安朝の「境界」を読み直す

(四川大学副教授) ウィリアム・マツダ

東アジア勸善書の移動と庶民教育

(東明大学教授) 成海俊

嵯峨本再考 (国文学研究資料館教授) 入口敦志

文求堂田中慶太郎父子の漢籍集蔵与鑑識

(北京大学教授・同文献学センター長) 劉玉才

経書註釈と博物学の間:江戸時代における「詩経図」につ

いて (東京大学教授) 陳捷

司会/川平敏文・静永健

〇他学会・研究会での発表(事務局把握分のみ掲載)

中国《文選》学研究会第十三届年会暨「百年選学」回顧与

展望」国際学術研討会

(二〇一八年八月四日~五日、於北京大学)

關於《幽通賦》曹大家注的學術性所在 栗山雅央

讀《文選集注》札記 静永健

第七十回日本中国学会大会発表

(二〇一八年十月六日~七日、於東京大学駒場キャンパス)

武定侯郭勛と通俗歴史白話小説(次世代シンポジウム「武

人・武官と文学」) 井口千雪

漢魏六朝時代における騷体賦の変貌

—本文生成と文体選択の二重視座から— 林曉光

李嶠「宝剑篇」創作考

—昇仙太子の剣を手がかりとして— 種村由季子

〇社会連携事業

中国外交部報道局メディア訪問団との懇談会

(二〇一八年四月二十五日、於箱崎・法学部二階会議室)

中文研究室教員及び学生一同
教員免許状(国語科)更新講習

(二〇一八年十月二十八日、於九大伊都キャンパス)
中学高校における漢文教材の再検討 静 永 健

記念中日平和友好条約締結四十周年・記念中国改革開放四十周年座談会

(二〇一八年十月二十三日、於ニューオータニ博多)
初めての旅行で知った新しい中国 大園大輔・福田華矢

○人事異動

鍾 東 三月三十一日、招聘外国人教師の任期を満了し、北京大学中文系に帰任。

林 暁光 四月一日、特定プロジェクト教員(外国人教師)として、浙江大学人文学院より着任。

甲斐 雄一 四月一日、明治大学文学部講師に着任。
栗山 雅央 四月一日、西南学院大学国際文化学部助教に着任。

長谷川真史 四月一日、東京学芸大学特任講師に着任。

○会員近著(事務局把握分のみ)

黄 冬柏『東瀛論西廂——《西廂記》流変叢考』
(商務印書館、二〇一八年四月)

岡村 繁『白氏文集 十三』

(新釈漢文大系一〇九、明治書院、二〇一八年五月)
牧角悦子『経国と文章——漢魏六朝文学論——』
(汲古書院、二〇一八年六月)

竹村則行(共著)『海内外中国戯劇史家自選集』
(大象出版社、二〇一八年七月)

愛甲弘志(共著)『幕末維新のリアル 変革の時代を読み解く7章』
(吉川弘文館、二〇一八年八月)

執筆者紹介(掲載順)

竹村 則行 九州大学名誉教授

胡 凌燕 浙江大学人文学院博士研究生

ウィリアム・マツダ 四川大学外国语学院日文学系副教授

井口 千雪 九州大学講師

岩崎華奈子 九州大学専門研究員

薛 欣欣 上海交通大学人文学院博士研究生

楊 柳 南京大学文学院博士研究生

『中国文学論集』第四十七号をお届けします。会則に示す通り、当会は毎年一冊のこの『論集』の刊行と、年六回の例会「中国文藝座談会」の開催を主な活動としています。本年七月、箱崎キャンパスで開催される最後の座談会が奇しくも第三〇〇回となりましたので、本学名誉教授の竹村則行先生にお願いし、当会についての回顧と展望をお話いただき、併せて本号巻頭にもご寄稿いただきました。続く六編は、当講座の井口講師、専門研究員の岩崎さん、また元九大教員（広人文学講座）のウイリアム・マツダ先生、そして昨年から一年間、特別研究生として当講座に在籍された胡凌燕さん、薛欣欣さん、楊柳さんの論文を掲載しました。中国の大学中文系で学ぶ大学院生とわれわれ日本の若手研究者との学術交流は、今後も活発に続けられるよう当会もさまざまに積極的な応援をしてゆきたいと思えます。

さて、二〇一八年は大学移転というまことに多忙な日々でありました。研究室の移転作業そのものは僅か二日間（八月三十日搬出、翌三十一日搬入）の、あつという間の出来事でしたが、ここを中心に一日の全ての活動が組み立てられている私たち（教員・学生）にとって、学び舎の移転というものは、それぞれに、また、さまざまに困難が伴ったことは否めません。しかし、その多くの原因は、私たちの日常の生活が、日々の習慣的な行動の連続によって、ほとんどが無意識のうちに、ぼんやりと、かくあるべき方式に固定され、また拘束されている（ように思い込んでいる）に過ぎません。これまでの「当たり前」から目を覚まし、新しい生活の中で、新しい物の見方、考え方を手に入れるには、この校区移転という大イベントは、実に千載一遇の好き機会かもしれませぬ。

移転を終えての数週間、私の脳裏に浮かんだのは、約三十年前の留学時の記憶でした。日本では当たり前前、九大では当たり前前……だったさまざまなのが、ガラガラと音を立てて日常生活から消えてなくなり、裸電球の薄暗い留学生楼で寝起きし、雨上がりには歩道に大きな水溜まりができる大学構内をト

ポトボと歩き、そしてやはり薄暗い中文系の辦公室で、先生や大学院の先輩たちと下手な中国語で何とか挨拶を交わし、埃まみれの資料室で見つけた中国語の論文を借り出してきて、また水溜まりの道を戻って近くの小売部のコピー屋さんで、異様に厚くゴワゴワした紙にコピーしてもらい、それを大切に持ち帰って（雨が霽がっても街路樹の雫で紙が濡れる）、夕方の留学生樓の、ふたたび焼けどしそうな裸電球の下、ラジオジャンの放送を聞きながら、論文のコピーや書店で買ったペーパーバックの書籍などを拾い読みする……。最初はそれまでの日本生活とのギャップに、さまざまな不満が心をよぎったが、二ヶ月、三ヶ月と経つと、中国の先生方の論文の、独特の思考法や視野の広さ、また基本的事項として常識化されている事柄の層の厚みなどが、何となく了解されてきて、中国への不満が、逆に日本や日本人学生たちへの不満に、気がつく^と自分の意識が変わってゆく瞬間があつたのを覚えています。研究環境の変化は、それまで自分では考えたこともない「新しい一歩」を踏み出すための、よいチャンスなのです。

しかも伊都キャンパスにはさまざまな良いところがあります。それまで別の階にあつた国文や美学、考古等の研究室とは同じ階になり、新しい図書館へも傘を差さずに行け、しかも、これまでは文系図書室・中央館・旧教養部分館……などと各地に「散在」していた書籍が、ほぼ一堂に集められています。比較社会文化研究院・言語文化研究院の先生方ともようやく同じ職場でめぐり会えました。そして、何よりも我が中国文学研究室では、窓の向こうに玄界灘を遠望し、まことに静かで穏やかな読書の時間が得られます（国道三号線や飛行機の騒音から解放されました！）。夕暮れどき、大学から鉄道駅までの坂道を自転車ですべてゆくと、実にのどかな田園風景が広がっています。空には十数羽の雁金の群れが綺麗に整列し、時にはその下の田圃一面に牛舎の牛たちが放たれていることもあります。秀逸は夕陽に映えるたかす高祖山。「ここが福岡市か？」と思えるほど、新鮮な空気を胸いっぱい吸い込んで、日々是好日を味わうことができます。

ほぼ隔月開催の「中国文藝座談会」は、会員外の方の傍聴も歓迎です（もちろん参加費無料）。どうぞ皆さま、新しい九州大学において下さい。

（静永 健記）